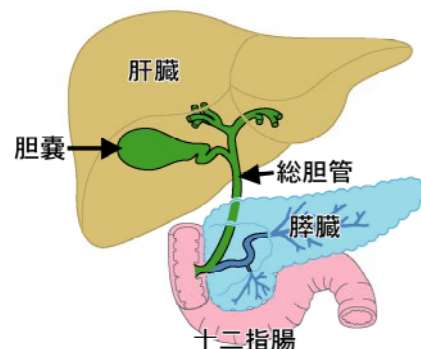


1. 胆石とは

胆石とは、胆道と呼ばれる胆汁の通り道にできる結石のことを言います。コレステロール、カルシウム、色素などが固まってできたもので、その成分によってコレステロール胆石、色素胆石に分けられています。胆道とは肝臓と十二指腸を繋いでいるもので、胆汁が流れるための胆管という管と、胆汁を溜めて濃縮するための胆嚢という袋の2つでできています。そのため、胆管に



ある胆石を胆管結石、胆嚢にある胆石を胆嚢結石と分けて呼ばれます。本稿では、胆管結石について述べます。

2. 胆管結石の症状

胆管結石は無症状のものから、緊急入院が必要になるような激しい痛みが出るものまで様々です。結石が胆管の中でコロコロ転がっている状態では痛みがないことが多いのですが、胆管に詰まったり、胆管と十二指腸の繋ぎ目に詰まったりすると痛くなります。痛くなる場所はみぞおち、またはみぞおちからやや右側のお腹が痛くなる人が多くみられます。吐き気がすることもしばしばあります。重症になると全身が黄色くなり（医学的に黄疸と言います）、高熱が出ます。このような病態を急性胆管炎と言います。緊急入院で治療を始めることになります。

3. 胆管結石を行う検査法

胆管結石の方や結石が疑われる症状のある方には、まず超音波検査やCTを行います。しかし、小さな結石などで超音波検査やCTでは正確な病状の把握ができないこともしばしばあります。その場合は、MRIや内視鏡的逆行性膵胆管造影という検査でさらに精密に調べることになります。また、血液検査で炎症反応や肝臓・胆道に関連する検査値も調べます。

カメラで取り除く胆石（胆管結石）の治療

内科部長 奥嶋一武

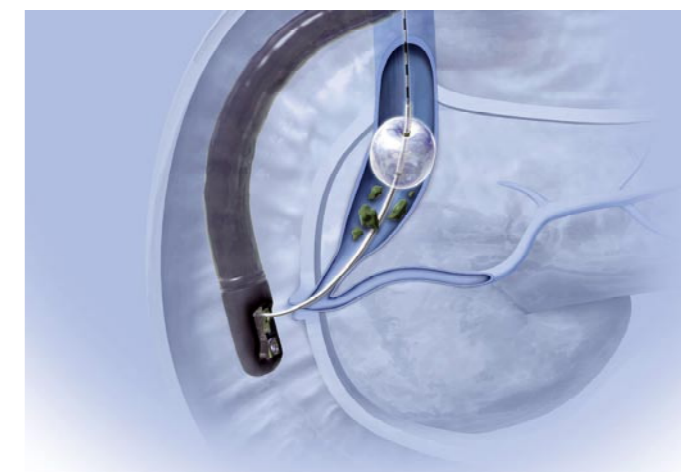
4. カメラを使った胆管結石の治療

以前は胆管結石の治療は開腹手術が定番の治療法であり、1カ月程度の入院が必要でした。しかし、最近は医療機器の進歩とカメラ（正式には内視鏡といいます）を使った治療技術の進歩によって、多くの方がカメラで結石を除去できるようになったため、開腹手術を受けなければならない方は激減しました。

カメラによる胆管結石治療の代表が内視鏡的乳頭切開術という内視鏡手術です。この方法について簡単に説明します。カメラは十二指腸用の内視鏡を使います。外観や大きさは胃カメラと大差はありません（十二指腸の観察や治療が行いやすいように細部は異なります）ので、胃カメラと同様に喉の麻酔と鎮静剤の注射をした後に、口からカメラを入れていきます。食道と胃を乗り越えて、十二指腸までカメラが入ります（通常の胃カメラでも十二指腸は観察しますが、それよりもさらに5~10cmほど奥までカメラが入ることになります）。そして、十二指腸乳頭部と呼ばれる胆管と十二指腸が繋がっている部位を見つけます。次にパピロトミーナイフ（図1）という電気メスを使って乳頭部を縦に切って、結石を掻き出すための出口を作ります（図2）。出口が出来たら結石を掻き出します（図3）。この時には色々な処置具を使います。主なものはバスケットカテーテル（図4）



とバルーンカテーテル（図5）です。バスケットカテーテルは金属製のワイヤーで編んだ籠で、この中に結石を入れて引きずり出します。バルーンカテーテルは名前のごとく先端に風船がついた道具で、この風船を胆管の奥の方で膨らませ（図6）、膨らんだ状態で風船を十二指腸に引き抜く



ことにより、結石を十二指腸に排出させます。掻き出した結石は便と一緒に出ていきます。手術時間は30分から2時間程度で、結石が大きいときやたくさんあるときに長時間になります。

当院でもこの内視鏡手術を行っております。入院期間は病状により個人差はありますが、多くは1~2週間の入院になります。胆管結石でお悩みの方は、外来の担当医師にご相談ください。